

……
……
……

……
……
……

……

……

……
……
……



な……っ!!

キ……
キサマあああつ!



姫に……
姫に何をしたあああつ!

……ムダですわ
……アレン様



この方はもう
言葉を話すことも
理解することも
出来ませんの

私を——
「本当のイリスを
手に入れたために
全てを失ったのです」

本当の……?



やあ……あん……
あむん……

は化け物……?

なんだ?
なんだこれは……?

……何を……
何を……
何を……

ああ……
先生……
先生……



ああ……欲しいの……
コレ……おっぱい……
気持ちいい……いいの……

だから私の口から
お話ししよう

私がこぞ知った事実
そして

ここに来てから
何かあったのかを



い痛痛…あぁっ！
イヤ…あぁっ！
イヤ…あぁっ！

イヤあああつ！
助けて！助けて
アレン様あ！

ワタシノモノ…
ワタシダケノオ
…

先住…私の飯盆を
引割がしました



飯盆の皿に
お金の
お札が
のりつけ
お札は
お札は
お札は
お札は



しかし厳格な教育を
受けるうちに私の
素直が消えてく…



この方は
私が幼い頃の
教師だったので

「おれは
先生で
た」
「おれは
先生で
た」



オマヤはオナナ…
チホ無しで
生られぬ
メアなのだ…

激しく乱暴に
突いて時に
白く痛く



うぐっ
うふんぐんぐん…

自操を奪われたあとも
延々と続く陰鬱の日々



そして私は先生に
教わりました

はあ…いや…
あ…ん…
せんせ…もう…
やめ…あぁ…

あぁあつ
せ先生…やあ…
またまたイク…

イヤ…なのにつ！
らめえつ！イク…
チンポで…イクイク…



王室への侮辱だと
怒った父は彼「
あら必死を誓って
幽閉しました

先住はここに
十年以上で
遺物を
割愛したので

だけと私があなたに
結婚するのを
知らされるの

身も心も…
壊れて狂って
しまっのアイリス



結婚してしまえば
本居アイリスは
完全に殺される

助けなければ—
守らなければ—

たぐえ無物の
力を借りてでも

奪わなければ—
全部喰うのだと
気付かせて
やらなければ—

アトリアの微笑。
なんて偽物なんだと

「よし、何かガハッ……
グヘッ、グヘッ……」

チンポお……
くださいチンポが
欲しいんですっ

先生のキンクマ汁
イリスのスケベ穴に
くらさい!

メスアタのマンコも
ケツ穴もチンポ便器に
してええっ!

私はひとりの人間であり
ひとりの女の子なんだと
そして……

かけて……かけて
かけてかけてえっ!

素顔の私を
愛してくたさるのは
この方なんだと

イリスのスケベ顔に……
先生のチンポ汁いっぱい
ぶちまけてくらさいいっ!

……先生の人格
言葉……記憶……

人間らしさは
このひと月の間
少しずつ消えて
いきました

でも
分かったんです

先生は私の代わりに
人を挿れたのだと
そして
すべてを失っても
私を愛して
くれていたのだと

違う……それはただの
下劣な性欲の塊!
愛すべき国民のもとへ
帰るんです! 姫っ!



離れられない……
今の私にとっては
外の世界こそ牢獄……

それに……
もう私の身体も……

ひ姫の胸が……
それに……?